

強い霜に関する農作物の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

平成28年4月11日11時20分、「強い霜に関する福島県気象情報 第1号（福島地方气象台）」が発表されました。

気温の低下と強い霜が予想されるため、今後の気象情報に注意するとともに、農作物の管理には十分注意して下さい。

強い霜に関する福島県気象情報 第1号

平成28年4月11日11時20分 福島地方气象台発表

（見出し）

福島県では、12日朝の最低気温が平地でも氷点下となり、強い霜による被害や凍害のおそれがあります。農作物の管理に十分注意して下さい。

（本文）

【霜】

<地域・時期・量的予想>

福島県では、上空にこの時期としては強い寒気が流れ込んでいるため、12日朝の最低気温が氷点下となるところが多い見込みです。

予想される12日朝の最低気温は、低いところで

会津の山沿い	氷点下5度
会津の平地	氷点下1度
中通りの山沿い	氷点下2度
中通りの平地	氷点下1度
浜通りの山沿い	氷点下2度
浜通りの平地	1度

です。

<防災事項>

強い霜による被害や凍害のおそれがありますので、農作物の管理に十分注意して下さい。

【補足事項】

「強い霜に関する福島県気象情報」は本号限りとします。

県の農業振興課のホームページに、作物別凍霜害等気象災害防止対策(平成28年3月14日)を掲載していますので、活用願います。

URL : <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/155972.pdf>

【果 樹】

現在の果樹の生育はももが開花中、りんご、なしは開花に向けて蕾が膨らみつつある時期となっています。生育が進むにつれ、耐凍性が低下し凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

また、開花期間が低温で経過すると、訪花昆虫の活動も停滞するため、人工受粉等により結実確保に努めましょう。

1 防霜対策

事前対策として、防霜資材の手配と準備を万全にするとともに、地温の上昇を図るため、下草を5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげる恐れがあるので注意しましょう）。

また、空気や土壌が乾燥している場合は気温の低下を助長するため、適宜かん水を実施し、土壌水分の確保に努めましょう。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認のうえ、人工受粉を徹底し結実を促しましょう。

2 開花予測（福島県果樹研究所）

今後の気温が平年並に経過した場合の開花始めは、なし「幸水」が4月19日で平年より2日、りんご「ふじ」が4月24日で平年より2日早いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表1 開花予測日 [予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測]

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
なし	幸水	4月17日	4月21日	4月19日	4月15日	4月23日
りんご	ふじ	4月22日	4月26日	4月24日	4月20日	4月28日

注）発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1986～2015年の平均値。

3 結実確保対策

開花の時期は、直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に十分注意し、訪花昆虫の導入、開やくの準備、人工受粉時の労力確保などを計画的に行いましょう。

【野菜・花き】

1 育苗・施設栽培

無加温ハウス内の作物には、カーテン、小トンネル、保温マット等を被覆し、補助暖房器具を用意して温度の確保に努めましょう。ストーブ等補助暖房器具を燃焼させた場合には、換気をしてからハウス内に入るようにしましょう。

日中晴れてハウス内が高温となった場合には、換気を行い、作物が軟弱な生育をしないように努めましょう。

2 トンネル・露地栽培

トンネル栽培ではビニル等に加え、不織布等の保温資材を被覆し、保温に努めましょう。

露地栽培では無理な早まき・植付けは行わず、既に植付けした場合は、トンネルやベタがけ資材の被覆により保温に努めましょう。

被害が発生した場合は、欠株の補植、速効性肥料の施用等適切な肥培管理により草勢の回復を図るとともに、病害虫の適切な防除を実施しましょう。

【水稲】

浸種は、10℃で10日間、15℃で7日間が目安です。水温が低すぎると発芽揃いが悪くなりますので水温を下げないよう、①育苗ハウス等の比較的暖かい場所で浸種する、②浸種容器を保温資材で覆う、③水温が下がりそうな場合は温水を加える、などの管理を行いましょう。なお、浸種期間は、水温を定期的に測定し温度管理を徹底しましょう。

無加温出芽の場合は、低温により出芽揃いが悪くなり、苗の生育が不揃いになります。低温が続く場合には、保温資材を活用し温度確保に努めましょう。

また、育苗期間中に低温(概ね5℃以下)に遭遇し、その後30℃以上の高温や過湿、水不足等の不良条件におかれると苗立枯病等が発生しやすくなります。温度管理(日中の換気と夜間の保温)には、十分に注意をしましょう。

表 2

ステージ	温度管理	水管理	備考
播種時～ 出芽揃	28℃	播種時箱当標準1リットル。	・もみ枯細菌病対策のため温度管理は28℃以下とします。
緑化期	昼 20～25℃ 夜 15℃	午前中にかん水。	・強風やかん水ムラがあると苗の生育が揃いません。
硬化期	昼 20℃ 夜 10～15℃	朝方たっぷりかん水。(日中高温で乾燥する場合は、必要に応じて早い時間帯にかん水します)	・低温、過湿が継続すると根張り(マット形成)不良になります。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7344

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>